

# 水害減へ「田んぼダム」

## 木板設置し排水量調整

【小山】2015年9月の関東・東北豪雨を受け、水害対策として市思川西部土地改良区（松本益一理事長）は今秋から「田んぼダム」の整備に乗り出す。田んぼが持つ貯水機能を利用して排水口に水量調節用の木製板などを設置し、洪水や水田被害の軽減を図る。同改良区によると県内初の試みで、水田所有者の協力を得ながら5年後までに市内約3千カ所、計約1200畝の田んぼに整備する方針。

（平井星）

### 小山・思川西部土地改良区

#### 今秋から市内300カ所整備

#### 関東・東北豪雨

15年の豪雨では市西部にある同改良区内で河川や水路が氾濫した一方、与良川

排水機場付近の生井地区などでは約100畝の水田で最大浸水約1尺、湛水期間1週間の被害に遭った。

田んぼダムは新潟県見附市や新潟市を先進地に全国に広がりつつある。田んぼ



田んぼの排水口に弁を設置し、直径約4センチの穴が空いた板を挟んで排水量を調節する

の排水口にポリエチレン製の弁状の装置を設置し、そこに直径約4センチの穴が空いた木製板を挟むことで雨水を一時的に水田にためて、少しずつ排水する。メンテナンスや設置も簡易なことから採用を決めた。

元宇都宮大農学部教授の後藤章さんの協力を得て、上国府塚など市内8地区に実験田を設けてシミュレーションを行い、同改良区内の下生井地区で効果が大きいことが分かったという。

5年後に整備が完了すると、50年に1度の豪雨の場合でも稲の生育に被害を及ぼすとされる水深30センチの状況が24時間続く水田は190畝から111畝に軽減されるという。全体では最大で約34万トンを貯水できる見込み。

5年間の総費用約5千万円は国の多面的機能支払交付金を活用する。松本理事長は「田んぼの機能を生かし、設置が簡単で急な雨でも効果を期待できる。5年間で整備してしっかり取り組みたい」と話した。